

## 平成 30 年改訂の高等学校学習指導要領に関する Q&A

### <特別活動に関すること>

問1 特別活動において育成する資質・能力の要素であり、学習過程においても重要な意味をもつ「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」と、資質・能力の三つの柱である「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」とは、具体的にどのような関係があるのでしょうか。

(答)

「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」は、特別活動の特質を踏まえ、これまでの目標を整理し、指導する上で重要な視点として整理したものです。

特別活動において育成することを目指す資質・能力については、この「人間関係形成」「社会参画」「自己実現」の三つの視点を踏まえて特別活動の目標及び内容を整理し、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事を通して育成する資質・能力を明確化しました。「人間関係形成」、「社会参画」、「自己実現」の三つの視点が、育成することを目指す資質・能力に関わるものであると同時に、それらを育成する学習の過程においても重要な意味をもつということは、特別活動の方法原理が「なすことによって学ぶ」ということにあります。

三つの視点はそれぞれ重要ですが、相互に関わり合っていて、明確に区別されるものでもないことにも留意することが必要です。

(参考)

平成 30 年改訂高等学校学習指導要領解説（特別活動編）第 1 章，第 2 章第 1 節

問2 目標が「望ましい集団活動を通して」から「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して」と具体的な表現に変わったのはなぜですか。

(答)

「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を發揮しながら、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して」は、これまでの学習指導要領の目標で「望ましい集団活動を通して」として示した趣旨をより具体的に示したものです。また、これまで特別活動の目標には、「望ましい集団活動」という用語が表記されてきました。しかしながら、「望ましい集団活動」という表現は、達成されるべき目標という印象を与えたり、最初から「望ましい集団」が存在するものであるかのような誤解を与えたりするという問題が指摘されていました。また、「望ましい集団活動」という用語では「連帯感」や「所属感」を大切にするあまり、ともすれば、教師の期待する生徒像や集団からのみ出し

を許容しないことで、過度の同調圧力につながりかねないという問題もありました。こうしたことから、「望ましい集団活動を通して」を具体的な「様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮しながら、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して」という表現に変えたものです。

(参考)

平成 30 年改訂高等学校学習指導要領解説（特別活動編）第 2 章第 1 節，第 2 節

問 3 第 3 の 1 の(3)で「ホームルーム活動における生徒の自発的，自治的な活動を中心として」とされているのはなぜですか。

(答)

ホームルームは、生徒にとって、学習や生活など学校生活の基盤となるものです。生徒は、学校生活の多くの時間をホームルームで過ごすため、自己とホームルームの他の成員との個々の関係や自己とホームルーム集団との関係は、学校生活そのものに大きな影響を与えることとなります。ホームルーム経営の内容は多岐にわたりますが、ホームルーム集団としての質の高まりを目指したり、教師と生徒、生徒相互のよりよい人間関係を構築しようとしたりすることは、その中心的な内容です。そのため、生徒が自発的，自治的によりよい生活や人間関係を築こうとして様々な展開される特別活動は、結果として生徒が主体的に集団の質を高めたり，よりよい人間関係を築いたりすることになります。

こうしたことを踏まえ、ホームルームがよりよい生活集団や学習集団へと向上するためには、教師の意図的・計画的な指導とともに、生徒の主体的な取組が不可欠であるという趣旨で示されたものです。

(参考)

平成 30 年改訂高等学校学習指導要領解説（特別活動編）第 2 章第 2 節

問 4 特別活動が学校教育全体で行う「キャリア教育の要」とされていますが、特別活動の指導に当たって留意する点は何ですか。

(答)

総則第 5 款の 1 の(3)に「特別活動を要としつつ各教科・科目等の特質に応じて、キャリア教育の充実を図ること。」とあるように、キャリア教育は学校の教育活動全体を通じて取り組むべきものです。キャリア教育の要としての役割を担うこととは、キャリア教育が学校教育全体を通して行うものであるという前提のもと、これからの学びや自己の在り方生き方を見通し、これまでの活動を振り返るなど、教育活動全体の取組を自己の将来や社会づくりにつなげていくための役割を果たすということです。

また、キャリア教育を効果的に進めていくためには、校長のリーダーシップの

もと、校内の組織体制を整備し、学年・学科や学校全体の教師が共通の認識に立って指導計画の作成に当たるなど、それぞれの役割・立場において協力して指導に当たることが重要です。

(参考)

平成 30 年改訂高等学校学習指導要領解説（特別活動編）第 3 章第 1 節 2

平成 30 年改訂高等学校学習指導要領解説（総則編）第 6 章第 4 節

問 5 ホームルーム活動(3)で活用する「生徒が活動を記録し蓄積する教材等」とは、どのようなものですか。

(答)

ホームルーム活動(3)の指導に当たっては、振り返って気付いたことや考えたことなどを、生徒が記述して蓄積する、いわゆるポートフォリオ的な教材のようなものを活用することを示しています。特別活動や各教科・科目等における学習の過程に関することはもとより、学校や家庭における日々の生活や、地域における様々な活動なども含めて、教師の適切な指導の下、生徒自らが記録と蓄積を行っていく教材です。

こうした教材等については、小学校から高等学校まで、その後の進路も含め、学校段階を超えて活用できるようなものとなるよう、各地域の実情や各学校やホームルームにおける創意工夫を生かした形での活用が期待されます。

指導に当たっては、キャリア教育の趣旨や学ホームルーム活動全体の目標に照らし、書いたり蓄積したりする活動に偏重した内容の取扱いにならないようにすること、プライバシーや個人情報保護に関して適切な配慮を行うことが求められます。

なお、文部科学省において、平成 31 年 3 月 29 日付けで「「キャリア・パスポート」例示資料等について」が発出、公開されています。この例示資料等を参考としつつ、各地域・学校の実情に応じた教材等の準備に着手し、円滑な実施への配慮が求められます。

(参考)

平成 30 年改訂高等学校学習指導要領解説（特別活動編）第 3 章第 1 節

問 6 ホームルーム活動(1)とホームルーム活動(2)、(3)は、解説の中で例示された基本的な学習過程が同じですが、違う点や指導する上で留意する点を教えてください。

(答)

ホームルーム活動において育成することを目指す資質・能力は、課題の発見・確認、解決方法の話合い、解決方法の決定、決めたことの実践、振り返りといっ

た基本的な学習過程の中で育まれるものです。

「(1)ホームルームや学校における生活づくりへの参画」については、集団としての合意形成を、「(2)日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全」及び「(3)一人一人のキャリア形成と自己実現」については、一人一人の意思決定を行うことを改めて明確に示したことを踏まえ、それぞれの活動の特質を踏まえた学習過程とする必要があります。

(参考)

平成 30 年改訂高等学校学習指導要領解説（特別活動編）第 3 章第 1 節

|  |
|--|
| 問 7 特別活動とホームルーム経営との関連が重視されているようですが、留意点は何ですか。 |
|--|

(答)

ホームルーム経営の充実については、総則の第 5 款の 1 の(1)に明記されるとともに、特別活動の第 3 の 1 の(3)において、「ホームルーム活動における生徒の自発的、自治的な活動を中心として、各活動・学校行事を相互に関連付けながら、個々の生徒についての理解を深め、教師と生徒、生徒相互の信頼関係を育み、ホームルーム経営の充実を図ること。」とされました。

ホームルーム活動における自発的、自治的な活動は、よりよいホームルームや学校の生活を築くための問題を発見したり、集団としての意見をまとめたりする話し合い活動や、話し合いで決まったことを協力して実践したりする活動です。集団としての意見をまとめたりする話し合い活動は、ホームルーム活動や生徒会活動において中心となる活動です。これらの活動を通して、ホームルームや学校の生活をよりよいものへとする態度や人間関係を形成する能力が身に付くことが期待されます。このような視点から、「ホームルーム活動における生徒の自発的、自治的な活動」を中心として、ホームルーム経営の充実が求められます。

(参考)

平成 30 年改訂高等学校学習指導要領解説（特別活動編）第 4 章第 1 節、

平成 30 年改訂高等学校学習指導要領解説（総則編）第 6 章第 1 節